

インドはITの分野などで注目されていますが、工業はどのように発展してきたのでしょうか。今回はその歴史の一端をイギリスとの関わりにもふれながら概観したいと思います。

インドで近代工業が起ったのは19世紀半ばのことでした。イギリス東インド会社による支配が終わり、インドがイギリスの直轄植民地となったのが1858年のことです。イギリスによる支配体制において

## インドの工業発展とイギリス

に輸出するようになっていきました。

インドにおいて近代工業が最初に出現したのは、貿易が盛んであったボンベイ（現ムンバイ）やカルカタ（現コルカタ）においてでした。貿易に従事していた商人たちが、それを資本として工業分野に進出していったのです。植民地期インドの工業化において、主要産業となったのは綿工業とジュート（黄麻）工業でした。ボンベイを中心に綿工業が、カルカタを中心にジュート工業が発展しました。

カルカタを中心としたジュート工業の発展は、もっぱらイギリス系資本によった。カルカタを中心としたジュート工業が発展した。インドの工業化において、主として工業分野に進出していったのです。植民地期インドの工業化において、主要産業となったのは綿工業とジュート（黄麻）工業でした。ボンベイを中心に綿工業が、カルカタを中心にジュート工業が発展しました。

ド人商人が発展の主な担い手となりました。1854年、ボンベイのパールシー商人であったC.N.ダヴァールによって設立された近代的な紡績工場が、インドで最初に成功した紡績工場であったと言われています。綿工業の分野に進出したインド商人の中には元々中国向けの綿花取引に従事していた者もあり、内陸部からの綿花供給を確保できていました。その後、1860年代にアメリカ南北戦争に起因して勃発した綿花ブームを経て、1870年代以降工場設立ブームが生じました。しかし、インドはイギリス綿製品の重要な輸出市場であったため、インドにおける輸入関税導入の問題をめぐって、イギリス綿工業の利害も絡んで両国の間に対立が生じていくことにもなりました。

# ボンベイの綿 カルカタの黄麻

大きな変革があったのとはほぼ同じ時期です。このころイギリスは、産業革命の経験を交えて、自由貿易を唱えて綿製品などを盛んに海外



名古屋大学大学院  
経済学研究科准教授

木谷 名都子

るものでした。当初は原料となるジュート生産のみがインドで行われ、それがイギリスに輸出されてスコットランドのダンディーで加工されていましたが、1870年代以降インドでも加工工場が多く設立されるようになり、ちなみに、インドの財閥のひとつであるビルラ財閥を築いたG.D.ビルラは、20世紀初頭にジュート工業部門に進出した際にイギリス側から執拗な妨害を受けたといわれています。

インドの工業化は、イギリスとの、一元的にはとらえられない複合的な関係の中で進展していったと言えるのではないだろうか。

綿工業については、イン

きたに・なつこ 外国経済史。大阪外国語大学（現大阪大学外国語学部）大学院言語社会研究科博士後期課程言語社会専攻修了。博士（学術）。1974年生まれ。

